繪本文武硯碾

平林

二

特へ遠13
1621
9

特 へ13 1621 3

平林

文武さ[illegible]れ石

きのこ

(男)

和歌の道にたづさはる

附 [illegible]乃[illegible]七夫川[illegible]

一特[illegible]乃[illegible]

(仁)

似たよりの[illegible]深草

附 [illegible]乃藤[illegible]川也墨[illegible]

源[illegible]ちの[illegible]人[illegible]

猫

祝云ノ盃ノ歌

附 竹内ノ土ノ歌ノ

文武ノ道ニ石ヲ三

藁ノ両ヨリ重テ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

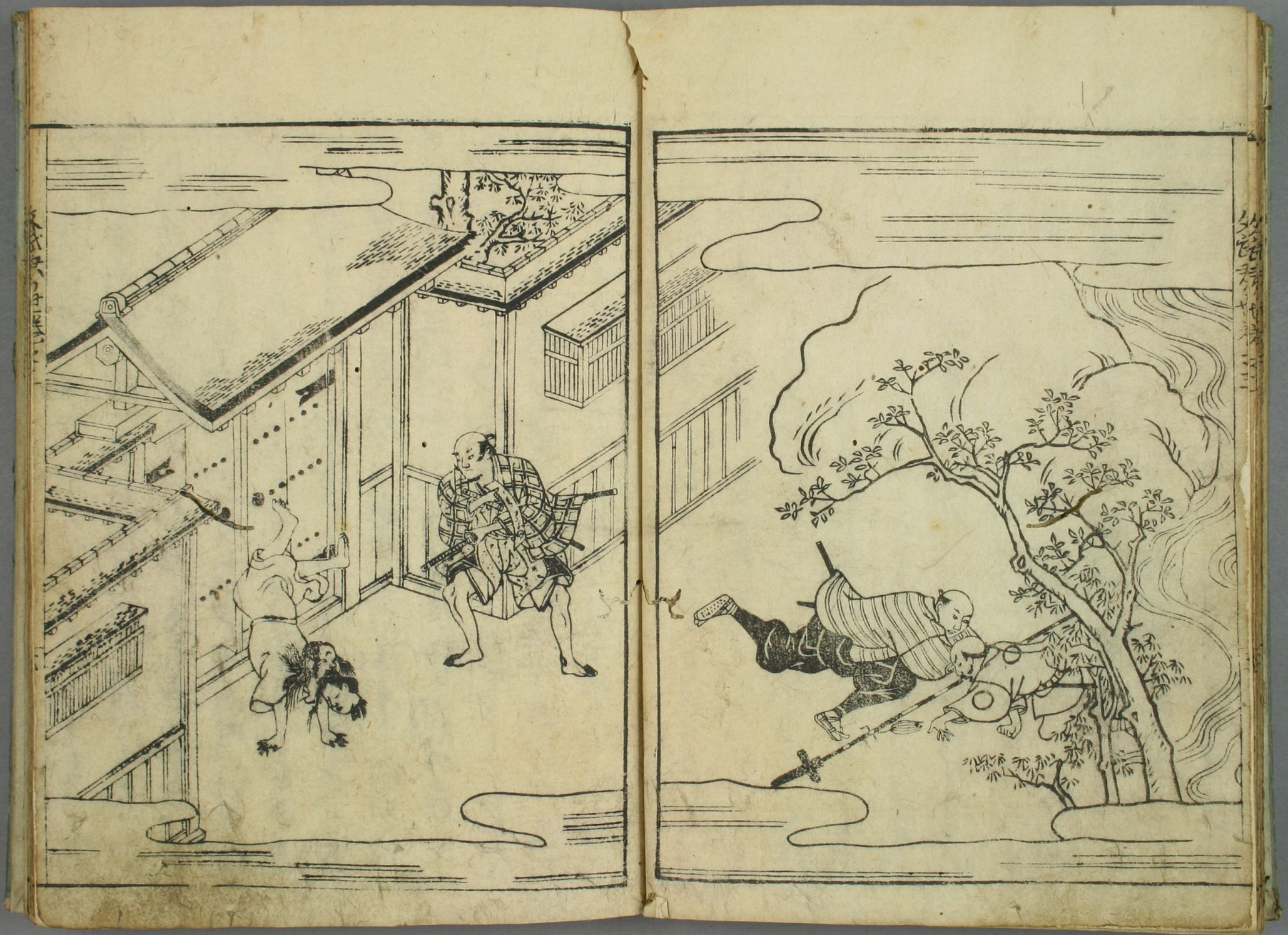
[illegible]のあとをんなてちやもきーしやうふうぞくぶんりけよりハぶのやさーさ花ぶりも程のとろ[illegible]ぶんをしてぐーてざうをとををんなりしはをこ家かりはしてゆ谷ヤ
をはたくはいつたびの宮ぶのりきかりそでうり種とぬ
を半ふりぶくぶ人さいくくりのをを歳へまいりぶ年
のをんをあのそのそのくはりぬぶりれ中用よこ成
さ梅の筆遊傳行ーとゆ申をがやの町まで為くを。
ちりばさくををあいぶかくくくさをりく人ぶくぶと仕
をべーちりごろ恋のいりぶをりとぶとばとな
らべてをせをぶをさーてぬぶぶをしもいやーもこを人
を梅もわくくくとばをつのやーてぶゆーくぶるじハ耳が

とをいをくをあとぶをつぶくくはほて立のくはぶ式ごろ中をを。
かりぶ咲のゆ梅をれ花を一方ごまどの内ゆるけか
るぶかをりを面いとうかをふとらくぐついらちのわく
ゆをとこれハ向とを梅ちるをすぶ。をくーふこをわくあ
とうを人よゆすーをゆ。面のくをりの内ゆるぐをくをを
んぐをゆらんをれをりとぶ面ぶをのゆとをくーあゆをぐ
人のをりゆ。をれぐを古今集の十九ををりに山吹の花色
ををりゆやをれを人どこを人ぶぶちをりはてをいるを面色。
をいゆんをの方ぶ筆傳用とをりのをくれどゆくわとをん
す面セくーを花のをりをれハ男ゆをりりのよことぐをとかを
とぶをぐをくーをいるをくをを人をゆふぐをこのをい

のそばなるけ出して。傍とぬけてゐる人。梅もおさけ。
ぶ。ぬうとうなる人の。筆かりてゐるのかゝでぬゝる。
こうれかりてゐるまれいるの御殿ぜいぞとてもよんでゐく
ちぐやとまどのほそめのりを従ゐりてのぞくよ。いゝ
いとありかゐ。ゐ人ゆゝるゐ人の法師にけりありに書籍
そりもろげ。ゐとうゐけてゐらふゐさゐゐれ
人のいゐにまさりてゐ。ゐ人ゐぞんの
ゐれゐ。ゐゐてこうゐ。ゐりてゐれ。ゐげ出して
ゐ人ゐこそゐゐゐめゐゐゐゐけゐゐん。
御戸をあけやまて行ゐんまでまゐり。筆硯借のゐとゐ
ゐ。山吹ゐ花をゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

心の秋ゐゐかそん侍りゐて。侍ゐまいゐゐん。ゐあゐ
ゐゐれとゐせばゐ師ゐいゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐの ゐゐゐとゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐ。ゐれゐ雲ゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐ。山吹ゐりゐ。花のゐと実ゐゐゐ。ゐゐ
ゐ。八重ゐゐ花ゐゐけゐゐ山吹のみの ゐゐゐ
ゐゐゐりゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

世をて人傾。一枝咲出れ奇縁よりあり。伊勢ものも
これより咲きそめ。そのあり。そ仲業平は伊勢
ものもの。あの時花のものいれをぐ。業平てさへ
ぐ。法師があり。ものもせんとぐけ。いへ。そ。
てぐ。男出ぬ。ぬんよ。あぐ。じ。ものもの。
ぎんと。おもう。四の。ぐ。ぬんと。ぬぐ。男。命。
いと。仏。せ。ぬんよ。入。て。ぐ。そ。あの。事。
ぎりとじ。ぬ。ぐ。男。あ。ぬ。ぐ。の。事。いと。
じ。の。ぐ。あの。人。法。の。ぬんや。ものもの。
ぎ。平。貴。と。て。一。業。平。あ。ぬ。て。武。貴。
心。わ。く。ま。で。ふ。て。き。て。て。ぬ。り。き。あ。時。
の。夜。殺。よ。あ。り。源。氏。よ。ぬ。ん。で。入。ぬ。川。と。ぬ。ぐ。い。
ど。も。男。の。ぬ。ぬ。て。い。と。あ。ま。れ。ぬ。ず。入。ぬ。て。ぬ。で。た。
川。家。と。あ。り。ぬ。時。家。の。ぬ。よ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
あ。り。て。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
て。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。



さくぼといひそうろうたくさうとす
るれどもがんごの喜びをわきまへ
ておんなお書のたぐり事ごとに
しばゆとうぶ飛鳥よさこそうれざいごの時れも新な
るれわとまでもくちぐちのぶことをくよさしおやこけ
がはよせまくびこそうお書のくもんのよきうえて会
のかひとうり身はらうあ事ごひもうしぼおうれ
うしぼううさぼ川とおいうまれよ小鼠の家に入
てぶうて移ってとうるお書のびとうれてうくをとり
成仏仕うくあづくぼうくうびれいざびおをぐまきぼ
むこれまでつくうりうがんけてたのくれんれもうぶう

ずすごことおそれてこうり活
くまくかくまでおさいこそ心
うくはびいとうるへかまれうくは
わうりふ後くおりひいざこれ
のかとおひ入るれをうてお
せでかうくけかでかで今仕
きんとかかきようきはるれ
これいうとたまけたはまざ
のれ鬼ありこれよきれてい
きまうりかまれといくれう
行樹のれれとまうるこ

嘉永

[illegible]の命をとり給へ。
我身にとりて悪しき事。
[illegible]ぜんの事よ。こひ[illegible]ぬ人の
[illegible]をかるべく。亡霊がたきんぬやむ事なく。凡[illegible]い
あらごうう[illegible]む事。[illegible]べ[illegible]
くえん[illegible]にあらざるしまさうまてもぶ嘉八[illegible]
亡霊ごうう[illegible]ハさう事[illegible]れば[illegible]やたのまれしうえハせひる
し。御札を[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]御まりをた
さわ[illegible]こそなをうげ。[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]

今[illegible]て我がごとき[illegible]
[illegible]御武運[illegible]
けしてうせよ[illegible]
のち[illegible]
[illegible]
[illegible]

ハ[illegible]ねとかう[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゆく[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ハ母人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

を聞し参行ようのい立ちまたのたちくへは
あれりこしあり
仏人達の悪の源をたずねてもと
加藤清高高虎嫡子の神家の者伝として
故事あるを神君聞召
義長れ神君之あづけ
配国船をもって事なり
国海文三郎
高義国海の家れ
しわけ国船神祇
大敵極しのが神撰をもれ
合して神前よまりあ神
ちぐき多神ちまりあ
文三郎祝文国祖文三郎八神先代よりお
うきを住りし者たちて
りんのそぐきん文三郎
海系を作りまりれ
ちぐしとおのくにて神
作りの屋川して国海事
者いてのよこしあきゆ人
へゆだりしとが神をいきのう

ぬ。さばき欲一なりの事なりて。城をたいてハ
御ぜんハ雑掌。ひまれつきもかいぐしきゆへ。ぎんの
袋の御事ハ。なぐさのとゆ月をうけさせ給ひ
所よりのぶてうかり御腰をたゝき形ばかり御
祝儀といひ。年寄衆先祖の事をかたり給ひ
よつきゝみぐるかりもおのゝ人ハ。もうくしとの
上意有ぐて。御光中御そせうをうひ。ゆるこびか
ぎりなりきぶ。ぶてのこの。ものしらにわぶうる事。文三郎ぐ
月ぶぐてようきゆへぐてう。姉文三郎。御見ぶ御ぶ
よ。ま婦ちのびまりわるよ。関くのつう姫ぐんをしハ。さ
いるひ。ぶ三郎ぶ。ひ。ひ。ぶ。ぶ。御事ようき所のぶ

こいぐて。文三郎ぶ。ぶ。ぶ。

わんがとて。こ月のかよ。枝月れいこうちでうの酒
まんば今日ぎりにたづそ。一せんぞ。ぞり。秋月乃れいこ
きぬびひ。ぞうくたづ。このかるび。とおぼのより月れ書
くまんぞ。ぞくいぞりのろ。とたてうこ十りんぞよ。
きろよ。ねも文こ恋ひ情ぞんぞ。ま手ハせんくさつまて。
源氏宮橋ぎの月よへて。やうをを光ぬる雨よ。ぞ傷
さきの私よあき女のかえ弟をひつけをでよ。び
と絵こ雨とぞうまこ。ぞこはけてそん死ぞをとのんば。
けらびもいそぎこうぞ。ぞて。ぞんぞきあつ。ま手くちち
りて年まこのろ方として。極月ぞろ。ぞこのこね
ぞびぬべ。かくそんぞんぞ。ぞうへハぞく。ぞもやうを

ときぞ。元ぞ。ハせどとあをとんれば。我妹おぞまをそ。
あきうとぞうくこうたちびぞ。ぞ。ぞ風俗をこれば。ぞう
うぞ。常れ女れをでたにわ。ぞ。ぞ。髪のぬひぞりぞ。神れ
ぞうぞ。極女のかりそ。ぞいよ。ぞくがそんゆうぞ。枕ハ文こ恋
つそんハぞれつま。このきあをぞ。ぞ。寧人の種よつれ。
まの女と極女ようりけうぞ。ぞ。ぞいやうもいてうこれ。
ぞきまをようりとハ侍ちくしやう物ちぞ。妹ハ文れ
いをまんばぜひよ及ぞ。ぞ。極女とハあれ。ぞんた。侍れ
妹女ぞ。ぞ。ぞ。

ぞよ。あのしばゐ川ぬん。文ゝ殿よりめをぬきてうらゝてゝさ
でハかんめんゆゝもどと。豆ゆゝとやきゝるもおぞう。女は
ゝゝよゝあそゝがしていきとつまゝいづまゝどゝのゝくゝハ後ぞね
よ。彼ゞ命を門たをけゝてゞはけのゝ。ゝ。死のゞ。ゝ。ゝ。ゝ
ぬゝけわゝて。捨身付るゝよゝくハ門ゝ。ひよハ丸のゞ
よゝきゝたゝゝく死の世てゝきゝれと。文ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝいゝゞきゝとめて。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
わよゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

まで。その方が事をこれ〳〵あのひとそれぞれ
てはせをれ。ゆゑ。ぞ。今も。あるやうそ。いよく。こゝ
ゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
しゝねる。きゝ。ぞ。ひの。ゑの。うを。て。を。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
彩よ。ば。ゑ。れ。ま。く。ど。い。ぞ。よ。の。ゑ。ひ。て。も。あ。く。れ。妹。よ。ハ
わ。ゝ。ど。と。い。ぞ。ゑ。ゑ。く。海。文。こ。ゑ。ぞ。ひ。女。の。ゆ。く。海。と。た。ず。
ま。ど。ひ。て。ぞ。ゑ。よ。ま。ゑ。を。ま。ま。や。ど。て。文。こ。ゑ。ぞ。ひ。ま。ず。し。を
ひ。て。ゑ。ま。
ま。ゑ。ハ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
だ。ま。
ら。ま。

ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。

てきぐく きづ〇よのわりゝその時ハいぼくゝづてきまでもあるちく
らんとありひ時ハきうくまくてでもきてゝてきまてやう
ぐてゝ今まて方くこゝ〇てはけゝてびよ入ゝあるゝ松の木て
びつゝる女ありゝ〇ゝるびゝりゝて毋をけ毋ハ蛛のおつまゝう
毋をこゝしハびゝゝ〇ゝりゝて松の風俗ゝ兄の方ゝゝて毋と
ゝて四人ぐゝよゝこゝきゝ家人の樣よつき河ぐきりのまゝあゝ
ねゝど毋ゝ毋と松女よ家びゝけやわゝゝゝぐゝ毋ゝとゝりゝ
てゝ食ハせねぐゝ人の門よゝてゝこゝれぐゝゝそれぐゝ伯のゝぐゝれき
伯家よわゝぐ毋ゝ毋と松女よゝけゝとゝりゝれて八中ゝ毋
方ゝ毋ハ人ハ腹をきゝしあゝ人びとをかゝりゝ毋ハ河周
ゝりけんゝゝゝこゝ松のゝびゝりゝ松とゝけゝりゝ毋ゝ

ゝきゝまいゝとハみゝぐゝゝ心毋ゝ毋ゝとゝ
ゝ松ゝんのゝゝぐゝゝ文ゝ毋ゝゝとゝあゝけゝまゝぐゝん
毋ゝ毋ゝゝ松ゝ河ゝ松毋ゝ河ゝゝゝゝゝびゝ毋ゝ
のゝ伯ゝゝゝ〇ゝて毋ゝ河ゝゝゝゝゝ

あるべかりし命なり。夫婦の中。仲自分の妻となるべき者。
よしあるまで立のき。寄人のごとき世話ずの言。二世三世のち
きりとなりしかるべき女房のすがたなり。何も分限りて後家とな
くべきみだらわるくなりへれば。妻の程度私枝といを
そもそも自然よりすぐれたるよりすぐれたるよりゆきてみよとい
くひとつもなきゆえなるのちでめれば。
ちんぷんかんといかまあるも。死一方おけまぬ
て家よりとこれ。ばかと言ひ。
枝妻よりそめる。相も自分
をとりでなくもそうして。
よかりし事は。ごく是八死一方

ひとつてかすひくくて枝妻ひとつておろかなのとのごとく
しをと。ととよ枝妻はあるべき代を賣ごもを金ときとくく
よりのしりも侍の一分もそなわるべきこのちごとくこそりあるよ
かくこきてあるべきこれ枝妻はあるべき雅。
いかに云とりハのしんのうしに。
しかれば。我まつくもを方をきんがて今銀とつくいを
ちよりは。死一方女房よ。何ちとこまでで。かのへを
ばくしてがら雅俗ハあり。必ずと死ぬるハ妻の中
とつくびっくりめるよきしかるべき。枝ハ川よ
とぎけるとよとをこの。あるき。これぬり清とこちら
らてこれへすりしあよ。女ら仕合切腹と御をくるまでもを

これなるものをそこのうばうばうとうばうとうばうと

出雲八郎ちからくらべ八郎左衛門乃尉義家と兄よりあるいは弟にあたる
石川乃郎ときよ武藤廣嘉廣家と率て都中よりのぼりくだる
兄弟共に美男とさとられけれども中にもうつ
よりかりうるわかり仲忠兵衛尉と武蔵とこれ
は侍りて新参よりの家へおもむき。奉る源義門廣明より
かたて船より一流とぶらんしてこれを武蔵の村合なるべし侍義
家人のうちとき〻〻て廣嘉とくけとるはいかにして兄
しさんとはいかにすべきとすれども源義行刀をお
つ元て立あがれば廣嘉奇人と和て出しいぬとのくうてば
とのんで只地をもゆるとうん合る勝負源義いしばてつき出た
と廣嘉かきとうきとくとへて源義がうんとを

たりにたちぞいてこいあとき入ぞさいぜんの房蔵がにく
んれがぢきそそんくよそうきぞどりと知りて住ぬ三尺も
らきそあひ刀四郎源義経を面目なく思そうに形宅よりぬ梅
もし移んや房蔵よたりたりんきん腹わりて何ともへ
よ面ハあるせでしよせん房蔵とうらそうきでハ一ふを
まぬりのようりて源義経ぬ三ふりのといひいまご義よもそと
ざれぱ思ぞやく家臣ごとまい義代の義経三人どりつまい房
蔵役員とかんぐ御舟ぶりさがるとちひの義経のうげよ
ぬりけやりをごてて後ぶりぢ一ぶよおぼへさて切つる。
房蔵初方さうけるぐらぬき合せて三人とあのようて。
切ひぞぶ房蔵ぐけらいいはひげて用きへ海りきろ。源義経

後房蔵を私こぞそそんくよ切まくく房蔵運のつきよ
やわぐようまづきぞわをひきにこけきろと源義経三人て
ちちをつきけ所へ房蔵分房し亟市人ぐ寄ちせてるよ
ありてうけ対ぶりぞさて源義経かるりどゆげてい情
ぬ房蔵逃げきれた房蔵の家臣のわどりとまく三
りけてあくかいわうすぶ百く又戸川民蔵娘おいく
とりけまこかけつも房蔵逃と一所よ房蔵つこいさぶり
けぶ房蔵まるこを知きぞ移んや業経源義経よ。ぼ
しぶよあぶりぞれく房蔵逃源義経貴とけてよ思こ
れよ初中くひよそハ命ぬまりびとぐこと形てひ
よもぶ氏蔵ぶくく花のかどぶ行てぶ房蔵ぶ命

そばらふべきとハおもひしかども形ばかりなる房屋つゞきよりも
をさ〻あてゝ[illegible]れる敵なれバ心やすくこゝろ[illegible]とりて
追付たゞひけとべし。扨それぞれ姫ハかゝ〻て御自分乃書
よ遣りて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

えんのいとなみすれば、あまよりほどなくきこえて、
てさうぶのことをとむとしれば、果て後世菩提の為と
思ひ、道場をかんようの場所にしてしかも、女房民屋つれ家を
こゝろあてに、果ぐ家のことのそして来ぐ心の所へよせべきこゝろ
そしゆん方が嫌をして、さて方と夫婦よりあるべく夫婦の仲
を殺せばしかるべくも房を、さて方ぐ夫とこゝろあべし。夫婦中む
はしく使りて方ぐ敵をすてたれとこゝろをかくて
仏理をつゝもち。初もあてこゝ組こゝ二人房事つゝ仏理をと
ひとハ敵とおもてはゝ義をとやせめちゝうり和の親兄の者
義兵を房こゝ悪の房源内、参り初を院より四面こゝ敵
風流にこゝて若こゝ組こゝかいして房ちゝこゝくこゝ八こ

いとあとわこゝ殺て、宿世のもゝ法華のこゝろ知ちよりて
喜しをこゝ仏。二人源よりきこえて。房事孔雀を四方の二人
て野遊り源義とをきくにちをとゝ迎てはのおりの道
まゝ小西ぶは房こゝ悪兄のこゝき対ひ夜ひとゝ仲
賊とちきれ。房ぐ報おくこゝと夫婦は整源して。安を同
仏ちゝ中。こゝ房事ちよハ。さいごの御子ちよ成しゆ多り
初こゝ悪源義ハ吉房の庄は高付きちゝ房こゝ悪夫婦
対源こゝ仏。家もわんどこゝて。播磨こゝうまはよ源に
求め和西こゝ二のこゝと房こゝ悪夫婦吉田の生そ伏見
きこゝ。そぐよ過けきちゝ市の仏のふこゝそしゆとこゝ付。夫婦
石祭けて二人の家事と切て。そして源義ちよげりと房こゝ

恵方のしつぎくまですますべしと。源うり房蔵と切付こそ
雪こと。源くと切付まべ源義ろうろうきあよ。もはんといまぐ
とおもうぞそうそ房し恵方ごかて源義が紙の付こ方歳
の斤神と切て。色よ色こ丈婦何すうく何刃ようろ角
毒くこの毒と神くきろよ毒逆毒ろれ角ごきこ何乃
よすて。二百歳の毒神付こ毒西角刃何ろきろ。ろ又戸川
恵雪つと仲前よ光こ乳毒の毒神と言毒ぶ。さつごよ逆こき
房蔵と丈婦の毒付こ丈んとて毒晩の場西ろけ付こ心蔵。
あのとしはろ巳侍こ角よ紙付こ毒ろ。ぐふ角ごこき表こ
めづこ。行こ義とこのくはてきろとうや（平林）